

料金後納  
郵便

## 第70期 中間報告書

平成27年4月1日から平成27年9月30日まで

## パイオニア株式会社

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (通話料無料)

濡れている場合は乾かしてからはがして下さい

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

### 当中間期の連結業績

当中間期の売上高は、前期に実施した事業譲渡の影響等により、前年同期に比べ5.7%減収の2,226億円となりました。一方、利益につきましては、原価率の悪化等により、営業利益は前年同期に比べ38.3%減益の21億円となりましたが、親会社株主に帰属する当期純損益は、為替差損益がプラスに転じたことや支払利息が減少したことなどにより、前年同期の24億円の損失から20億円の損失に改善いたしました。

### 成長戦略を着実に推進

当社は、車室空間における快適、感動、安全・安心を創出する「総合インフォテインメント」のリーディングカンパニーを目指し、成長戦略の実現に向けた取り組みを着実に進めております。

カーエレクトロニクス事業の成長戦略にとって非常に重要なテーマである自動運転の実現に向け、3次元走行空間センサー

「3D-LiDAR(ライダー)」の実用化に向けた開発および車載実証実験を開始したほか、ドイツの大手地図・位置情報サービス会社のHERE(ヒア)と、自動運転で使用される高度化地図の活用に関し協業を検討することに合意いたしました。

テレマティクスサービスへの取り組みでは、中国の大手インターネット関連企業である百度(バイドゥ)社から、同社のテレマティクスサービスに対応する車載機器の開発・製造を受託したほか、当社の開発した自動車向けテレマティクス・ソリューションが東京海上日動火災保険株式会社に採用されるなど、着実に進捗しております。

さらに、国内外の大手自動車メーカーからのカースピーカーの新規受注の獲得や、製造コストを大幅に低減した塗布型有機EL照明の調光・調色型パネルの開発、医療・健康機器関連事業における研究用レーザー血流計の発売など、成長戦略に掲げた取り組みを着実に具現化しております。

これからも成長戦略の実現に向けて、しっかりと歩みを進めてまいります。さらに、カーエレクトロニクス事業の着実かつ持続的な成長に向け、経営基盤の強化に全社一丸となって邁進することで、早期復配を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年12月

代表取締役 兼  
社長執行役員

小谷 進

## 来たる自動運転の時代に“なくてはならない会社”を目指す

### 自動運転向け3次元走行空間センサー「3D-LiDAR」の車載実証実験を開始

世界各国で自動運転に向けた取り組みが進められる中、当社は今年9月、光ディスク関連技術などを駆使した3次元走行空間センサー「3D-LiDAR（ライダー）」の車載実証実験を開始しました。これは、レーザー光で周辺状況をリアルタイムかつ詳細に把握するセンサーで、数十メートル先の物体までの正確な距離の測定や形状把握などが可能なため、将来的に自動運転車に不可欠なシステムになると言われています。



LiDARシステムで生成した3次元点群地図データ



車載レイアウトイメージ

### 低コストで効率的な「高度化地図」の整備、運用、管理の実現に向けて

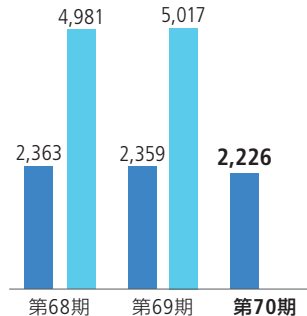
当社は、地図制作子会社を持つ強みや「3D-LiDAR」等を活用し、自動運転に必要な情報のみを収集し作成する「高度化地図」に取り組んでいます。小型化・低価格化を実現した「3D-LiDAR」を広く一般車両に搭載することで、低コストで効率的な「高度化地図」の整備、運用、管理の実現を目指しています。

当社は、光技術、ナビ技術、地図技術など、自動運転実現に必要な技術を全て併せ持つ唯一無二の存在として、来たる自動運転の時代に“なくてはならない会社”を目指します。

## 連結業績ハイライト

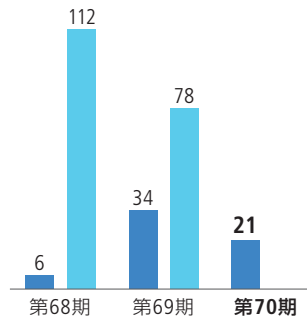
### 売上高

■ 中間期 ■ 通期 (億円)



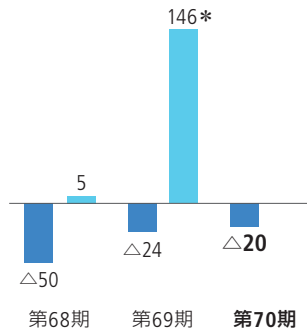
### 営業利益

■ 中間期 ■ 通期 (億円)



### 親会社株主に帰属する当期純損益

■ 中間期 ■ 通期 (億円)



\*事業譲渡益等を含んでいます。

セ  
ガ  
は  
郵

## 株式の状況 (平成27年9月30日現在)

発行済株式総数 372,223,436株

(注)発行済株式総数には自己株式5,029,326株を含んでいます。

株主総数 44,345名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱電機株式会社	27,886	7.59
株式会社NTTドコモ	25,773	7.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	21,104	5.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,431	4.47
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	15,951	4.34
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	12,665	3.44
ゴールドマン サックス アンド カンパニー アールイージー	7,093	1.93
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,490	1.76
ザ バンク オブ ニューヨーク 133522	5,938	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,192	1.41

(注)持株比率は発行済株式総数から自己株式数を控除して算出しています。

## 会社の概要 (平成27年9月30日現在)

商号	パイオニア株式会社
本社所在地	〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号
資本金	917億3,171万4,430円
従業員数	2,984名(単独) / 18,301名(連結)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部) 証券コード: 6773
ホームページ	http://pioneer.jp
問い合わせ先	経営戦略部 IR・広報部 証券業務課 電話: (044) 580-3211 (代表) Eメール: pioneer_shr@post.pioneer.co.jp

**POINT** : 中間期における売上高は、円安の効果もあり、カーエレクトロニクスは増収となりましたが、前期に実施した事業譲渡の影響等により、5.7%の減収となりました。営業利益は、原価率の悪化や売上高の減少により、38.3%の減益となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、前年同期に計上した為替差損が当期には為替差益に転じたことや、支払利息が減少したこと等により改善しました。